

第14回(平成26年度)私立短大入試広報担当者研修会 分科会4報告書

運営委員：土橋正人(和泉短期大学)

■分科会研修1日 (悩みの分かち合いと面白さの共有) 7月2日(水) 15:30 ~ 17:15

・分科会オリエンテーション、スケジュール確認、KJ法、ブレスト法資料、事前メール資料、高等教育機関を取り巻く環境における資料を配布。

・各短大自慢および自己紹介(1人4分) ⇒ 各人が作成してきた自己紹介・大学自慢シート配布

13名の参加があり、持ち時間を超過してしまい、時間内に全ての自己紹介を終わらせることが出来なかった。これも運営委員の進行の手際が悪く不徳の致すところ。

今回は、ワークショップですでに参加者同士のコミュニケーションが十分取れていた。予めワークショップの内容を把握出来ていれば、初日の分科会内容をもっとスムーズに運営できたのではないかと反省している。

※ 事前に課題として、分科会メンバーにメールを配信し、自己紹介シート等の作成を依頼していたが、メールが届いていないと言う参加者がいた。

運営委員の責任において、届いた旨のメールをもらうような工夫が必要であった。

分科会研修2日 7月3日(木) 13:00 ~ 17:00

・前日の自己紹介の続き。3名の参加者 (13:20 まで)

13:20 ~ 16:40

・1日目の「グループワーク」、2日目午前中の「高校教員からの事例報告」、「マーケティング」講演を通して、参加者が広報戦略を共有してもらおう。

・2グループ分け、机セッティングをして、本分科会は「入試制度改革、広報予算と戦略、地域と短期大学」という雑多な3つの課題をテーマにBS法、KJ法によりポストイット書き出し、模造紙に書き出して、新たな広報戦略、広報活動について話し合ってもらおう。

・短い時間の討議であったが、Aグループは、コストを意識したPDCAによる広報活動、広報戦略を行い時間内にプレゼン用紙を書き上げた。

反省

時間内にミニプレゼンまでの誘導できなかったため、翌日の全体会でさらに、プレゼンについてグループで話し合ってもらった。

・Bグループは、大阪地区の大学を想定し、「定員充足と教育の質保証」を2つの柱にして、広報戦略を企画し、建前と本音を年間活動に当てはめて行った。当然出てくるのは、葛藤であるが、2つの柱があるため日常の経験を活かしたプレゼンを検討していた。

反省

熱心に討論してくれたため、翌日8:00時に集合して、プレゼンの準備をしてくれた。時間配分を言うべきであった。

16:40 ~ 17:05

入学案内書、グッズのコンテスト

入学案内書、グッズの交換

参加者による、投票を行い、最優秀、優秀の3校の表彰状及び商品の授与を行った。

7月4日(金)

全体会 (7分科会によるプレゼンテーション)

各分科会は3グループ15分ずつ割り当てられ、分科会ごとに3グループがプレゼンを行った。

我が分科会4は2グループがプレゼンをした。打ち合わせ時間が少ない中、また、予行練習が無い中うまくプレゼンしてくれたと感じている。

いつものように、研修会参加者の感想を直接に聞く時間が無かったため、アンケートによる感想しかないのが残念に思えた。

〈研修会の振り返り〉

- ・分科会4の参加者は、大学の規模、経験年数、男女、年齢、地区などがうまく割り当てられていた。
- ・自大学の課題や他大学の状況が分かり、有意義な時間が過ごせた。
- ・ネットワークを広げることができた。
- ・短大の研修会として充実していた。
- ・他の大学職員と短大の諸問題について情報交換できた意義は大きい。

などのご意見をいただきました。

今回の運営に関しては、分科会4の参加者に対しては、アンケートの記述が少ない参加者もいて、満足のゆく運営が出来ていなかったのではないかと反省している。

自主性に任せた方がいいのではないかと側面から見守る姿勢で臨んだが、参加者から分科会によって温度差があるとの指摘も頂いた。

大きな反省点として今後を活かし、次年度に繋げていきたい。

